

press release

2012 年 12 月 5 日

スタンダードチャータード 2013 年世界経済予測 国・地域で明暗やばらつきが見られるものの、世界全体では回復

スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン 最高経営責任者:ピーター・サンズ/在日支店:千代田区 最高経営責任者:クリストファー・ナイト)は、このほどロンドンにて発表した経済レポート、「2013 年世界経済予測 (Year Ahead - 2013)」で、世界経済が 2 年続いた減速傾向から反転し、来年は 2.8%の成長率になるという見通しを示しました。2010 年に金融危機後で最高の 4.4%となった後、2011 年に 3%へ鈍化した世界景気は、2012 年には当行予測で 2.6%まで下がる見通しです。冷込みが最も顕著な地域は欧州で、当行は欧州の景気後退は 2013 年も続くと予想しています。

増税と財出削減が 2013 年 1 月 1 日に発効する事態を自動的に順延させる方策について、米議会が今後数週間以内に合意に達すれば、世界経済の成長率はさらに上向く可能性があります。いわゆる「財政の壁」は、当行の世界経済予測にとって最大のリスク要因の 1 つです。当行は、税制面で数年にわたる持続的な影響緩和策が打ち出され、その結果、特に 2013 年後半に消費マインドの回復と投資支出の増加が見られると予想しています。

同レポートでは、経済的パワーバランスの西側(先進諸国)から東側(新興諸国)へのシフトを反映して、新興市場が、世界経済にとって最大の成長エンジンとしてあり続けると判断しています。その背景には、新興諸国全体における中産階級の増加があります。中産階級の増加は、国内需要を伸ばすとともに、西側で続く債務圧縮が新興市場に及ぼす影響を相殺しています。同時に、新興市場を結ぶ新たな貿易回廊が拡大し、アジア・アフリカ・中東・中南米の諸国間の貿易量はもとより、投資・イノベーション・インフラ整備も増加し、それが新興市場の成長の新たな源泉となっています。

欧州危機や中国経済のハードランディングリスクへの懸念が薄れてくれば、新興市場に依存した成長にとって、先進諸国と新興諸国の双方における金融緩和は更なる追い風となり、企業マインドや市場の信頼の改善につながることを予想されます。

ユーロ危機は根本的な問題が未解決のままですが、その状況は「急性」というより「慢性」的なものになり、欧州中央銀行による債務危機対策が整いました。当行は、欧州経済が 2013 年後半に、非常に弱いながらも回復の兆しを見せると予測しています。

スタンダードチャータードのグローバルリサーチチームは、本レポート内で、主要な国と地域について以下のように分析しています。

中国・・・公共投資の増加と住宅建設の回復で、中国経済が徐々に勢いを増すことが予想されます。その結果、経済成長率の見通しは 2012 年の 7.7%から、2013 年には 7.8%へとわずかながら上向くと見ています。ただし、これらの予測には、直近四半期の伸び率を著しく上回る成長の可能性は反映されていません。

インド・・・インフレ圧力の緩和でインド準備銀行(中央銀行)が利下げに踏み切り、適度な経済改革が企業マインドの改善をもたらし、経済は徐々に回復する見通しです。しかし、インドがより高い成長率を達成するためには、中国以上に経済改革を緊急に進める必要があります。

その他のアジア地域・・・当行グローバルリサーチチームは、過去 10 年間平均を超す経済成長が続くインドネシア・マレーシア・フィリピン・台湾の先行きについて、特に楽観的な予測をしています。中でも際立った成長が期待される国は、フィリピンです。平和な配当、サービス部門の拡充、信用格付けの引き上げへの期待を反映した外貨の流入などに支えられ、フィリピン経済は 2013 年に 5.8%の成長が予測されます。

アフリカ・・・商品価格の値上がり、多くのアフリカ諸国の成長を下支えすると予想されます。外的要因には懸念材料がありますが、当行は、アフリカの 2013 年の成長率は 5%になるとみています。南アフリカ共和国の景気低迷が、アフリカ全体の平均成長率を引き下げています。一方で、少なくとも 9 カ国の 2013 年の成長率は 7%超に達する見通しで、それらの国を「7%クラブ」と呼んでいます。アフリカの「7%クラブ」の対象国数は、この 10 年で倍増しました。

中東・・・原油価格は高値で推移することが予想され、石油輸出国は、いずれも引き続き高成長率が続く見通しです。それ以外の諸国は、一部の国が政治的移行期にあるなど、状況はより複雑で、今後の経済成長は政治的安定の維持と企業マインドの回復にかかっているとと言えます。

スタンダードチャータード銀行マクロリサーチ部門グローバル責任者、マリオス・マラテフティスは次のように述べています。

「2013 年の世界経済に進展を予測していますが、道のりは明らかに平坦ではありません。西側では債務問題との闘いが続いており、近々の問題として米国の『財政の壁』があります。その協議が満足のいく合意に

至らなければ、米国は新たな景気後退局面に陥り、全世界がその影響を被り、欧州債務問題が再び危機的状況となる危険が高まります。しかし、現在の状況は数年前と酷似しています。つまり、経済的パワーは西から東へ移り、例えば中国の景気後退への懸念が繰り返し話題になるものの、アジア諸国は、西側にとっては夢のように高い経済成長率を達成しています。アジアのほとんどの国では金融緩和時代は終わり、2013 年後半には海外からの資本流入と、高いインフレ率が主要な懸念事項として再浮上してくることが予想されます。2013 年下半期アジアの中央銀行は、インフレとの闘いを余儀なくされるかも知れません。」

詳細につきましては、以下の担当者までご連絡ください。

Shaun Gamble
Senior Manager, External Communications
Tel.: +44 20 7885 5934
Email: shaun.gamble@sc.com

Marios Maratheftis
Global Head of Macro Research
Tel: +971 4508 3311
Email: marios.maratheftis@sc.com

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333
Ca.Japan@sc.com

スタンダードチャータード銀行-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、香港証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびにインド国立証券取引所に上場している国際的な金融グループです。世界で最もダイナミックな市場—アジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。また、世界70カ国以上で1,700余のオフィスを有する当行は、国際的なキャリア構築の機会を総勢87,000余名の行員に対して生み出しています。当行グループでは、長期的視野に立った持続性のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでのコーポレートガバナンスを保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を得ています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜に初めて駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で132年目を迎えます。アジア・アフリカ・中東地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けに、多岐にわたる金融サービスを提供し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードグループHP(英語) www.standardchartered.com
スタンダードチャータードグループ facebook(英語) www.facebook.com/standardchartered
スタンダードチャータードグループ Twitter アカウント @StanChart
スタンダードチャータード銀行在日支店HP(日本語) www.standardchartered.co.jp
スタンダードチャータード銀行在日支店 HP(英語) www.standardchartered.co.jp/index_english.html